



# ツネログ #18

2026年2月号

皆さん、こんにちは。

2026年の始まりに、とてもうれしいニュースがありました。ロサンゼルスオリンピック世代で臨んだAFC U23アジアカップサウジアラビア2026において日本が大会2連覇を果たしました。

2年後のオリンピック本大会を見据えてU-21世代で編成したチームで、かつメンバー23人のうち8人が大学でプレーしています。準々決勝のヨルダン戦こそ120分間で決着がつかずPK戦となりましたが、4-0で勝利した中国との決勝戦をはじめ、大会を通じて力強い勝ち方をしてくれました。私も決勝戦を視察しましたが、アジアの各協会の皆さんから驚きを持って受け止められるとともに、「日本には本当に良い選手がたくさんいる」と高い評価をいただきました。

私自身あらためて感じているのは、彼らの高い志です。

SAMURAI BLUE(日本代表)の選手たちはそれぞれ欧州の舞台で活躍しています。そのことが「うねり」となって、若い世代がどんどん海外に飛び出している現状があります。日常から高いレベルを追い求めて互いに切磋琢磨しながら成長していく流れにあり、今回の優勝メンバーもそういった全体の勢いといいますか、自分たちの可能性を感じながらプレーしているのがすごく伝わってきました。

次回の同大会はロサンゼルスオリンピックのアジア予選を兼ねることになります。本大会出場枠がこれまでの「3.5」から「2」に減少し、より厳しい戦いとなることは間違いありません。慣れた環境で戦うほうが勝率も高まります。枠を勝ち取る後押しをしていくために、アジアサッカー連盟(AFC)に日本開催の意思表示をしました。

年末年始はU-18女子サッカーファイナルズや高円宮杯U-18サッカープレミアリーグファイナルをはじめ、U-15男女、U-12、U-18女子、高校男女といった各カテゴリーの全国大会決勝を中心に、男女の育成年代の試合を現場で見る機会が多くありました。将来が楽しみだと感じられる選手たちが多くいました。世界に目を向けると次々にタレントを輩出している強豪国があるように、日本もそういった流れを加速させていきたいと思っています。

2026年はシーズン移行の年になります。欧州カレンダーとの整合が進むことで日本人選手の移籍がよりスムーズになり、連帯貢献金(※)などで次世代の選手育成につながる好循環を生み出していけるはずです。

最後にご報告があります。今年度の天皇杯決勝が6年ぶりに元日開催となりました。1年の始まりに、多くの方にサッカーを楽しんでいただきたいという思いです。そして皇后杯決勝との「同日セット開催」につきまちはいろいろとクリアしていかなければならないハードルはありますが、トライしていきたいと考えています。

公益財団法人日本サッカー協会 会長

宮市 恒靖

※FIFA規約に基づき、選手の海外移籍時に  
移籍金の5%を12歳から23歳まで在籍した  
各クラブに分配する制度





# 会長の活動報告

2025年12月12日～2026年1月15日(抜粋版)

12/14(日)

## Jヴィレッジハーフマラソン(Jヴィレッジ)

12/16(火)

## FIFA競技規則委員会(カタール/ドーハ)



昨年から、競技規則の改正・検討の立案、国際サッカー評議会(IFAB)への提案、運用テスト、競技会への実装までを担う「FIFA競技規則委員会(Laws of the Game Committee)」の委員長を拝命しました。FIFAの委員会において意思決定に関わる重要な役割であり、責任を持って取り組んでいきます。

12/19(金)

## JFA Partners Gala(東京都内)



JFAの事業を支えていただいているパートナー各社の皆さまをお招きし、1年間の感謝をお伝えするパーティーを開催しました。パートナーをはじめとする多様なステークホルダーとの連携を、今後とも層深めていきます。

12/20(土)

## JFA臨時評議員会(JFAハウス)

12/21(日)

## JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025 高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2025 ファイナル(埼玉スタジアム2002)

12/23(火)

## 佐賀県みやき町中央公園 落成式(佐賀/みやき町)



2020年に「女子サッカーのまち宣言」を行い、スポーツを通じたまちづくりを推進している佐賀県みやき町に、新たな人工芝ピッチが誕生しました。JFAも施設整備に協力しています。多くの子どもたちのほか、世代を超えて地域の皆さんが集い、交流する場となることを期待しています。

12/24(水)

## Jヴィレッジ取締役会(オンライン)

12/27(土)

## 高円宮妃杯JFA第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会 決勝 高円宮杯JFA第37回全日本U-15サッカー選手権大会 決勝 (味の素フィールド西が丘)

12/28(日)

## 第104回全国高等学校サッカー選手権大会 開会式・開幕戦(国立競技場)

12/29(月)

## JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会 決勝 (白波スタジアム)



サガン鳥栖U-12とソレシソ熊本U-12による決勝は、延長戦でも決着がつかず、PK戦の末に鳥栖が初優勝を果たしました。2026年には第50回の節目を迎えます。U-12年代にとって大きな目標となっている本大会の運営に尽力いただいている皆さまにあらためて感謝申し上げます。

1/1(木)

## 皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会 決勝 (国立競技場)



14年ぶりの元日開催となった皇后杯決勝は、16,527人の観客を集め、サンフレッチェ広島レジーナがINAC神戸レオネッサを2-1で下して初優勝を飾りました。女子サッカーをさらに盛り上げ、その魅力をより多くの皆さまに届けるため、現在、女子サッカー戦略の策定を進めています。

1/10(土)

## JFA第29回全日本U-18女子サッカー選手権大会 決勝 (J-GREEN堺)

1/11(日)

## 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 決勝 (神戸ユニバー記念競技場)



昨年から47都道府県代表制となった高校女子選手権。今大会は大分・柳ヶ浦が鹿児島・神村学園との九州勢対決を制し、初優勝を果たしました。本大会を通じて、全国で女子サッカーの裾野がさらに広がっていくことを期待しています。

1/12(月)

## 第104回全国高等学校サッカー選手権大会 決勝 (国立競技場)



決勝の入場者数は過去最多となる60,142人を記録しました。選手たちの意識や技術レベルの向上とともに、100回を超えて大会そのものの価値もさらに高まっていると感じています。今後もより素晴らしい大会となるよう取り組んでいきます。

1/15(木)

## JFA理事会(JFAハウス)





# 理事会トピックス

2026年度第1回理事会が1月15日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。  
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

## 決議事項

### U-16/U-15日本代表監督を選任

U-16日本代表監督に廣山望氏、U-15日本代表監督に城和憲氏が選任されました。昨年よりFIFA U-17ワールドカップが毎年開催となったことを受け、U-16日本代表は2027年大会、U-15日本代表は2028年大会の出場を目指すチームとして編成されます。

### 役員等推薦委員会 委員が決定

3月の役員改選における役員等推薦委員会の委員として、須藤実和理事、田中琢二理事、西本強理事の3名が選出されました。補欠1名は西原一将副会長となっています。

### 「指導者に関する規則」を改正

ライセンス保有者の障がい者サッカーへの参加促進や障がい者サッカーの環境充実などを目的に、「指導者に関する規則」における「第6節 リフレッシュポイント」「第19条(1)付与対象の指導者」に、「障がい者サッカー連盟が承認した監督及びコーチ」を追加することになりました。

## 報告事項

### 各カテゴリー日本代表コーチングスタッフの選任

FIFA U-20ワールドカップ2027出場を目指すU-19日本代表コーチに白石通史氏が就任しました。FIFA U-17ワールドカップ2027出場を目指すU-16日本代表のコーチは前述の白石氏と小野木玲氏が、GKコーチは山岸範宏氏、フィジカルコーチは佐藤哲哉氏がそれぞれ務めます。また、FIFA U-17ワールドカップ2028出場を目指すU-15日本代表コーチには大畑開氏、GKコーチには山岸氏が就任しました。

### 倫理・コンプライアンスタスクフォースが答申書を提出

昨年の事案を受けて設置された倫理・コンプライアンスタスクフォースが、理事会に答申書を提出しました。組織風土改革によるJFA役職員らの意識向上、研修・教育プログラムの実施や人権ポリシーの策定、違反時の適切な処分と周知の徹底が重要だとしています。さらに、規則や規程の見直しや内部統制システムの再構築、リスク管理体制の強化、通報制度の改善、定期的なアンケートとモニタリングなども提言。2月以降に具体策を答申する予定となっています。

### FIFAワールドカップ2026の賞金と準備金が決定

FIFAカOUNCILが昨年12月17日にカタールのドーハで開催され、FIFAワールドカップ2026の賞金と準備金が決定しました。総額は7.27億USドルで、優勝チームには5,000万USドル、準優勝チームには3,300万USドル、3位に2,900万USドル、4位に2,700万USドル、ベスト8に1,900万USドル、ラウンド16で1,500万USドル、ラウンド32で1,100万USドル、グループステージ敗退(33~48位)でも900万USドルが与えられます。なお、参加48チームには準備金として150万USドルが支給されます。

### 2028年ロサンゼルスオリンピックの出場枠が決定

2028年のロサンゼルスオリンピックサッカー競技における各大陸の出場枠が決定し、アジアは男子が前回のパリ大会から1.5枠減って2に、女子は2枠から2.5になりました。オリンピックの出場枠については、昨年4月の国際オリンピック委員会の理事会で男子はパリ大会の16枠から12に削減、女子は12から16に増えることが決まっていた。

### 新たに5人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要な「Proライセンス」について、新たに市川大祐さん、大谷秀和さん、田中達也さん、前田高孝さん、宮澤浩さんの5人が同ライセンスを取得しました。これで2025年度に受講した20人のうち12人が認定されました。

### 1級審判員、1級審判インストラクターの勇退者を表彰

殿堂・表彰委員会は、2025年をもって勇退した21人のサッカー1級審判員、4人のフットサル1級審判員、5人のサッカー1級審判インストラクター、5人のフットサル1級審判インストラクターに対し、表彰を実施しました。長年にわたりトップカテゴリーにおいて審判または審判指導者として活動し、審判技術の向上等に著しく貢献したことに対して感謝の意を表するものです。

## Information

### 天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会は8月開幕、決勝はMUFGスタジアム(国立競技場)にて元日開催

天皇杯JFA第106回全日本サッカー選手権大会は8月に開幕し、決勝戦を2027年1月1日(金・祝)にMUFGスタジアム(国立競技場)で開催することが決定しました。同会場での開催は4年連続、元日開催は第100回大会以来6年ぶりとなります。※12/25発表

### フットサル日本女子代表 須賀雄大監督が退任

フットサル日本女子代表の須賀雄大監督が契約満了に伴い退任することとなりました。須賀監督は2025年に初開催されたAFC女子フットサルアジアカップでチームを初代女王へ導き、さらに同年のFIFAフットサル女子ワールドカップではベスト8入りへと牽引しました。あわせて、藤田安澄コーチ、富澤孝GKコーチ、大森知フィジカルコーチも退任することとなりました。※1/14発表

### その他の主なニュース

- ・冬季特別企画「JFAフットボール大学 冬季特別講座2026」と「夢の教室inブルーイング」をblue-ing!で開催(12/12発表)
- ・皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会 株式会社SCOグループが決勝の協賛社に決定(12/15発表)
- ・第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 決勝当日にダイハツガールズサッカークリニックを開催(12/16発表)
- ・JFA×〈みずほ〉「BLUE DREAMみらいスクール」の第4回を2026年2月14日に長野県で初開催(12/18発表)
- ・JFAアカデミー福島女子15期生 林椿選手がC.F.F. Caceres(スペイン)に加入決定(1/10発表)
- ・「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」アヤックス(オランダ)へ4選手が短期留学(1/14発表)





2026年のスタートとなる第18回はSAMURAI BLUE(日本代表)を率いる森保一監督をマンマークします。  
アメリカ、メキシコ、カナダ共催によるFIFAワールドカップ2026まであと半年。  
「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉に臨む本大会に向けた「最高の準備」について語り合います。



動画  
公開中!

## 日本一丸で、最高の景色を見に行こう

**宮本** ワシントンD.C.での組み合わせ抽選会は隣同士でしたけど、(相手が決まっても)森保さんの表情は変わりませんでしたね。

**森保** ワールドカップに出てくるチームはどれも強いだろうなっていうつもっていますから。オランダ代表、チュニジア代表と(相手が)決まってくる中で、特徴はそれぞれあれど厳しい戦いになることは間違いないので、特別な反応というのはなかったかもしれません。相手がどこであっても、自分たちがいい準備をして力を出し切ることが最も大切です。相手の良さを消して、逆に自分たちの良さを出す。そして自分たちの良さを消すということもやっていかなければなりません。

**宮本** そこは対戦相手によるんでしょうね。

**森保** まず相手の良さを消すというところはFIFAランクの上位チームに対してはしっかり考えていく必要があります。一方で前回大会のコスタリカ代表戦のように引いてカウンターを狙ってくるチームに対しては、リスク管理をしつつどのようにこじ開けていくか。ここでは自分たちの良さを消しながら、が大切になってくると考えています。

**宮本** メンバーの組み合わせもいろいろと増えてきた中で、3月31日(日本時間4月1日)にはウェンブリー・スタジアムでイングランド代表と国際親善試合を戦います。

**森保** “ド”がつくほどのアウェイで試合をやるイメージを持っていますし、そこで世界トップクラスのイングランド代表と対戦できるというのはめちゃめちゃ楽しみです。

**宮本** (しかもこの大事な時期に)イングランドが日本との対戦を受け入れるところまでステータスが上がっているんだなという実感もあります。それとともに(堂安)律の「自分たちは日頃、欧州でプレーしているから別にアウェイじゃない」というコメントを見たときに、今の選手たちの感覚はそうなんだとあらためて感じました。

**森保** 頼もしいですね。選手たちはどこが相手でも同じ目線で戦えるし、どんな環境でもタフに戦ってくれます。日本サッカーの歴史が積み上がっているからこそだと思います。

**宮本** グループステージの対戦相手となる欧州プレーオフB組の勝者(ウクライナ、スウェーデン、ポーランド、アルバニア)を含めて分析が大変になるかと思います。過日、テクニカルスタッフに聞いたところ、ラウンド32では最大40チームと当たる可能性がある、と。かなり広くやっていかなければならず、東京大学、筑波大学の協力を得て、学生さんにもサポートしてもらっているそうですね。

**森保** はい。代表チーム帯同のテクニカルスタッフのみならず、JFAのテクニカルスタッフ、そして東大、筑波大の学生にも協力してもらっています。相手の情報を収集し、そこから整理してチームに落とし込むための体制を整えてきました。

**宮本** 準備において大会までのプランニングをどう考えていますか。

**森保** メインの対策は暑熱です。事前キャンプ地でしっかりとその準備をしてからベースキャンプ地に入りたいですね。ベースキャンプ地は選手たちがストレスを感じることなく快適に過ごせ、集中してトレーニングできる場所をスタッフが探してくれています。どの候補地になっても環境はすごくいいと思います。

**宮本** あとは移動面ですかね。昨年9月のアメリカ遠征では西部のオークランドから東部のコロンバスまで飛行機で4時間半掛かり、3時間の時差が生じました。私も同行しましたが、チャーター機の中で電気器具を使ったりリカバリー、ゲーティングでの食事など、本番を想定したシミュレーションをやっていましたよね。

**森保** 移動時間を計算しながらチーム全体で動いていかなければなりません。負担を減らすためにフィジカルコーチともその点は常々話をしています。コンディショニングを数パーセントでも上げ、勝率確率を数パーセントでも高めていけるように、スタッフが一生懸命考えてくれていますし、JFAからバックアップしてもらっています。とてもいい準備ができていると思っています。

**宮本** JFAとして「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」と掲げています。そこに向かって、JFAに対してこうしてほしいという要望はほかにありますか。

**森保** 常に最大限のことをやってもらっています。ただお願いがあるとすれば、いろんな方を巻き込んで、日本一丸で世界に挑むという雰囲気をつくっていただけたらありがたい。(チームに)伝わるツールはいろんなところにありますし、それが最後まで戦い抜くための一番のエネルギーになりますから。

**宮本** 分かりました。そんな雰囲気をぜひつくってきたいですね。

**森保** 本大会では相手のことを分析して対策を講じていかなければなりません。自分たちの持っている力を全てぶつけていきたい。日本サッカーの未来につなげていくチャレンジをしていくことが大切です。そうしていけば自然と確率を上げていくことができると思っています。

**宮本** 実は僕からも一つお願いが。大会期間中、ベースキャンプ地で僕と一緒に寝泊まりして、一緒に過ごしたいと考えているのですが…。

**森保** いつでもウェルカムです! ツネさんはいつも一歩引いて、遠慮されるんですよ(笑)。ワールドカップではぜひわれわれと一緒に生活して、みんなに声を掛けてあげてください。

### 森保一(もりやす・はじめ)

1968(昭和43)年8月23日生まれ。長崎県出身。  
マツダSC(現サンフレッチェ広島)、広島、京都パープルサンガ(現京都サンガF.C.)、ベガルタ仙台でプレーし、日本代表として国際Aマッチ35試合出場。2004年選手引退。広島の強化部育成コーチ、JFAナショナルコーチングスタッフ、広島コーチ、アルビレックス新潟ヘッドコーチを歴任後、広島の監督としてJ1で3度優勝。17年にU-20日本代表監督に就任し、21年の東京オリンピックでベスト4。18年4月にSAMURAI BLUEコーチ、同7月から同監督。FIFAワールドカップカタール2022ではベスト16。ワールドカップを挟んで2期連続で日本代表を率いる初の監督。

※次号は2026年3月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

